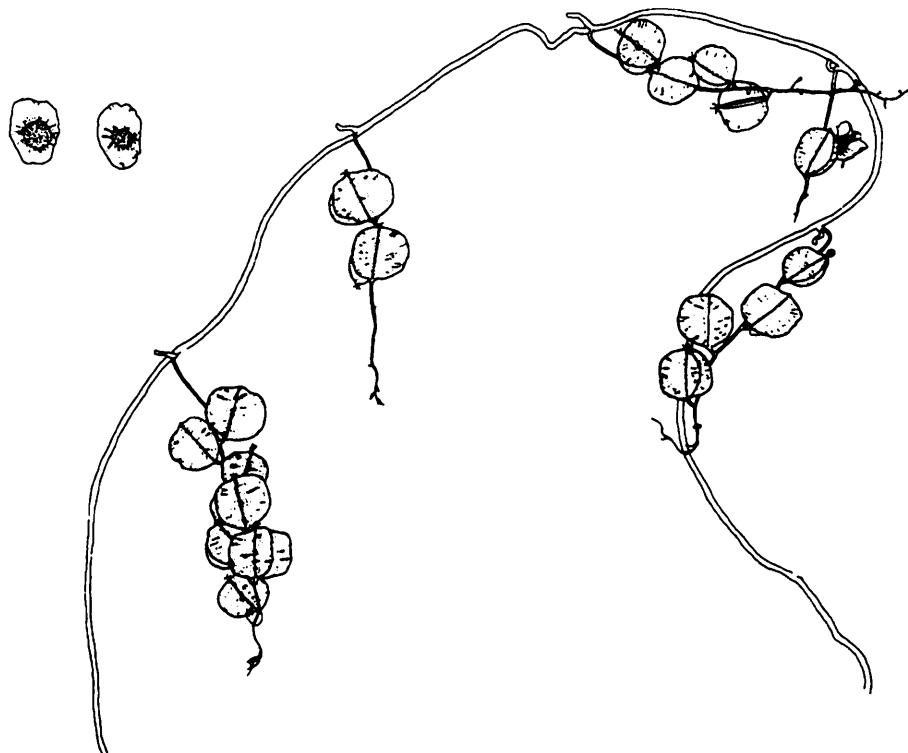


協議会ニュース 145号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2014.12



ヒメドコロ 岡田 慶範（西三河支部）

【報告】フォローアップ研修会
植物分類研修会
茶臼山 秋の草木観察会
白樺峠のタカの渡り
逢妻男川の魚の調査
須賀川の中をのぞこう
善師野の帰化植物
自然観察のヒント「道具を工夫しよう」
私の活動紹介
理事会報告（平成26年第3回）
マダニにご注意！ / 編集部から

事務局 石原 則義	2
名古屋支部 浅井 聰司	3
名古屋支部 滝田久憲	4
尾張支部 斎竹 善行	5
西三河支部 石川 正雄	6
知多支部 水野 恭	7
尾張支部 平井 直人	8
名古屋支部 山田 千宏	9
東三河支部 片山卓也	10
	11
	12

フォローアップ研修会報告

レポート：事務局 石原 則義

9月6日（土）、7日（日）、名古屋市西区の庄内緑地公園で「トンボをテーマに生物多様性を伝える観察会をしよう！」と題し、講師に槐 真史氏（厚木市郷土資料館学芸員、『日本の昆虫』の著者）をお迎えして、22名の受講生のもと、フォローアップ研修会が開催されました。



▲フィールド実習の様子

9月6日（土）午前中は「トンボの観察会をはじめよう！」ということで、槐先生がお持ちいただいたトンボを、写真を交えて解説していただきました。

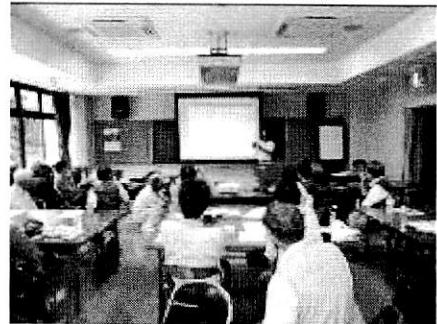
「左右の目玉（複眼）が大きく離れているものとあまり離れていないものがあり、止まり方も違います。はねを広げたままぶら下がるように止まるのはオニヤンマ科・ヤンマ科、はねを広げたまま水平に止まるのはトンボ科です。ツノトンボはトンボ科ではありません。どこが違うのでしょうか。長い触角があるのが特徴です。トンボ科の触覚は、ほとんど発達していません。代わりに複眼が非常に発達しています。トンボ類はチョウとは違い、さなぎの時期を経ない不完全変態です。」

そんな講義を受けた後で、弁当を持ってフィールドへ出ました。

午後は、ガマ池・ボート池の周りのトンボ調べです。まずはタモ網でイトトンボ類を捕らえました。イトトンボやアジアイトトンボをチャック付きのポリエチレンの袋に暫く入れておくと、袋から出して指に乗せても飛んでいかないので、しっかり観察することができました。同様にマユタテアカネ、つがいのギンヤンマも観察しました。ガマ池にはモノサシトンボ、コシアキトンボもいました。

槐先生はコシアキトンボのことをパンダトンボと呼び、トンボの撮影手法として、背景に手や台紙を添えると良いということを教えていただきました。また、「自然しらべ2014」では田んぼのトンボに関する報告が少ないので、是非協力してほしいというお話をありました。

7日（日）は、班ごとにトンボをテーマとした観察会の計画を作り、発表しました。各班の持ち時間は5分でしたが、私たちの班は前置きが長く、時間内に全てを語ることができませんでした。



▲班ごとの発表会

通いの研修でしたが、あつという間の2日間でした。1日目の懇親会には槐講師や日本自然保護協会の方々も参加し、槐先生の貴重な話などで盛り上りました。

植物分類研修会 報告

レポート：名古屋支部 浅井 聰司

実施日：平成 26 年 10 月 13 日（月・祝）

場 所：日本特殊陶業市民会館

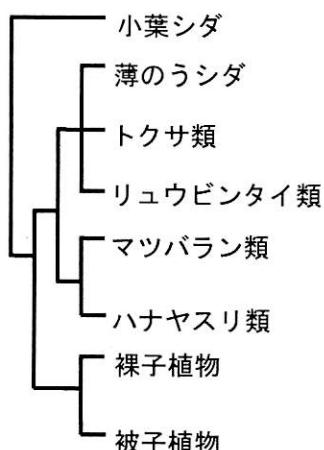
第一部 植物分類研修会

講師 増田理子先生（名古屋工業大学）



▲増田理子先生

近年、PCR とオートシーケンサーによる DNA 解析により、植物の系統分類の体系が大きく改変されました。APG(被子植物系統研究グループ)から発表された植物の大系統を紹介します。



小葉シダ(ヒカゲノカズラ、イワヒバ、クラマゴケ)は一番早く分岐し、他のシダ類は種子植物とともにひとつの群をつくっています。

被子植物の双子葉類は、合弁花や離弁花という形態的な分類は消え、大きくバラ類とキク類の系統に分けられました。

バラ類系統にはマメ・バラ・ブナが、キク類系統にはキキョウ・シソ・キクがあります。

植物生態がご専門の増田先生からは、「遺伝子だけでははっきりしない曖昧なところもたくさんあるので、野外で形態や生態を 1 年かけてじっくり観察することも重要です。植物の繁殖戦略を観察すると、種がどのように分化するか考えることができます。ユニークな発見もあります。」とのお話がありました。

さらに、新分類体系で書かれている資料として、山と渓谷社の「高山に咲く花」「山に咲く花」「野に咲く花」や、外来種について書かれた「日本帰化植物友の会全農教」のホームページをご紹介いただきました。

第二部 湿美半島の海岸植生

講師 東三河支部 中西 正 氏

また第二部として、東三河支部の中西正氏から湿美半島の海岸植生についての報告がありました。

伊良湖岬には多くの海浜植物が生育しており、海岸から内陸にかけてライントランセクト法を用いた植生調査を行ったこと、崖植物群落、塩性植物群落(裏浜・新堀川・福江湾)、海浜植物群落(表浜・恋路が浜)、海岸植物群落(西浜通り)などの海浜植物の生育状況、堤防工事に伴う攪乱後の植生の変遷、外来植物ダイソマツバギクの増加について、報告されました。

茶臼山 秋の草木観察会

名古屋支部 滝田久憲

日 時：8月31日（日）10:30～15:00

場 所：茶臼山

参加者：名古屋支部11名、高校生1名

本年第3回目となる県連絡協議会研修会を茶臼山（1,415m）で実施しました。テーマは秋の山野草の観察です。

この研修会では、茶臼山の植物に詳しい村松正雄会員（尾張支部）に講師をお願いしました。

茶臼山には三つの登山ルートがあります。私たちは、第1駐車場近くにある休暇村登山ルートを利用しました。登山ルートに入る手前の草地でコテングクワガタ、シシウド、ゲンノショウコなどを観察しました。

登山ルートに入ると道は細くなり、森の広場・山頂分岐点までなだらかな坂道が続きました。この間、観察した主なものはツルアジサイ、モミジガサ、アキノタムラソウ、ヤマトウバナ、ツクバネソウ、イヌヤマハッカなどです。

この分岐点から一旦登山ルートを離れて、エンシュウツリフネソウの保全地域に向かいました。エンシュウツリフネソウはこの地域や静岡県の一部でしか見ることができない希少種で、鹿などによる食害から守るために一定区域が柵で覆われていました。この辺りではカワチブシ（トリカブト）、エンシュウツリフネソウ、ツリフネソウ、ナンバンハコベ、スズカアザミ、バライチゴなどを観察しました。

再び先程の分岐点に戻り、ささやきの小道を通って山頂を目指しました。この間、ホソバガシクビソウ、ヤマジノホトトギスなどを観察しました。



▲エンシュウツリフネソウ

山頂で昼食をとった後、雷岩、夫婦樺を経由して先程の分岐点に戻り、愛の小路経由で自由広場に出ました。自由広場ではたくさんの鹿の糞を観察しました。

その後、西側登山ルートの斜面を下り、出発地点に戻りました。ルート沿いには、ハナノキやヤマブドウ、コナラなどが植栽され、先ほどまで歩いてきた自然林とは大きく趣を異にしていました。

今回の研修会では上記以外のたくさんの山野草や樹木を観察することができ、改めて茶臼山の自然の豊かさを感じました。



▲観察会風景

白樺峠のタカの渡り

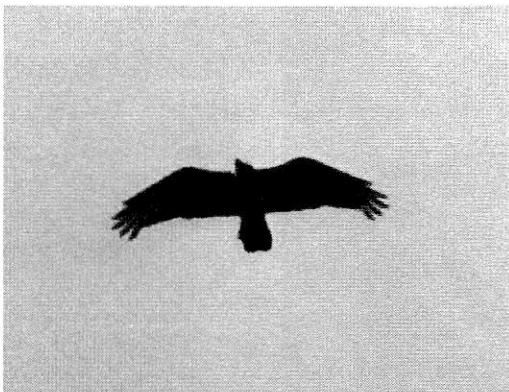
尾張支部 齋竹 善行

日 時：9月23日（土）8:00～19:30

場 所：白樺峠（長野県松本市）

参加者：6名

白樺峠は、乗鞍スーパー林道の途中にある峠（標高約1600m）で、1989年にここを渡りのタカが多数通過することが発見されました。通過するタカの数はサシバ、ノスリ、ハチクマの順で、他にツミ、ハイタカ、オオタカ、ミサゴ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウ、チュウヒ、トビなどが見られます。渡りは9月初旬から11月中旬までで、ピークは9月中旬から10月初旬、多く飛ぶ時間帯は正午から午後の早い時間です。白樺峠は本州で最も通過数が多いことに加え、谷筋を飛ぶタカの背面を見ることができます。そこから、野鳥愛好家に人気があります。



▲白樺峠を渡るハチクマ

車2台で朝8時に出発し、中央道、国道19号、長野県道26号、乗鞍スーパー林道を走り、正午に白樺峠に着きました。峠から南東に約1km行った所に「タカ見の広場」が整備されています。マツムシソウの花が

咲き、ミドリヒョウモンが飛び交う広場には200名を超える観察者がいて、大きな望遠レンズのついたカメラやフィールドスコープを東側の松本平方面に向けて、タカの通過を待ち構えていました。

途中出会った人にこの日の通過数を尋ねたところ、午前中飛んだのは2、3羽で期待はずれだと言っていました。昼食をとつてしばらくした頃、ハチクマが、続いてオオタカが通過しました。その後も時々飛びましたが、15時過ぎにサシバ13羽が通過しました。3時間程の間に見られたタカの数は30羽程度でしたが、アオバト、アマツバメ、アサギマダラなども飛び、峠付近ではハナイカリの花なども見られ、十分楽しめました。

ただ、昨年（「伊吹山の生きもの」15名参加）、一昨年（「きのこ」19人参加）の研修と比べ参加者が6名と少なかったことが少々心残りです。研修のテーマ、開催時期、場所、PRの仕方などを再考し、多くの会員が参加できるような研修を企画することが次年度の課題です。



西三河地区には原生林を含め、自然度の高い場所が残されています。しかし、私たちが普段生活している身近な場所も自然観察の対象として重要ではないかという観点で、今回私は私（石川）の自宅から 200mほどしか離れていない、逢妻男川を観察場所に選びました。今回は「あいの自然観察会」にも登録して、外来種の調査もテーマのひとつとして実施することになりました。また、豊田市の機関である若林交流館に実施相談に行ったところ、交流館の親子向け講座として登録し、子供たちの参加者は交流館で集めていたことにありました。

さて、この逢妻男川は、平野部である豊田市の中心部から流れ出す、生活排水を水源としています。矢作川に比べると決して自然度が高いとはいはず、汚れを示す COD 値は年間平均で約 7.0。それでも毎年鮎の遡上が確認できるという不思議な川です。どんな魚が確認できるのでしょうか。

さあ、小学生たちと楽しいガサガサの実施です（笑）。が、その詳細は割愛し、結果だけ報告します。

特定外来生物に指定

されている、ブルーギル、ブラックバス、カダヤシの 3 種とも確認。一方でメダカ（なぜかヒメダカも確認）、タモロコといった在

来の魚類も健在でした。この川にはミシシッピアカミミガメも多数いますが、イシガメ、スッポンも住んでいます。まだなんとか持ち

こたえている、という状況なのかなと感じていますが、だからこそ大切にしていかなければいけません。同定が終わり、その解説とともに多様性の重要性をさりげなく説明。小学生には難しかったかもしれません

が、この体験から何か身近な環境保全の大切さを感じ取ってくれたら幸いです。

参加者：大人 19 名、子供 24 名／計 43 名
採取方法：タモ網による採取

確認された魚類：オイカワ、カマツカ、コイ、タモロコ、モツゴ、ヨシノボリ（トヨシノボリかカワヨシノボリか不明）、メダカ、ブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）、カダヤシ

2014.08.03

あいの自然観察会

あいづまおがわ

逢妻男川の魚の調査

-若林交流館講座「逢妻男川バイオリサーチ」-

西三河支部：石川 正雄



須賀川の中をのぞこう

知多支部 水野 恭

日 時：8月23日（土）9:30～11:30
場 所：東浦町南部ふれあいセンターから
須賀川へ
天 気：曇りのち晴れ
参加者：一般参加者17名、指導員13名

一部の地域では朝から豪雨となったので心配しましたが、開催場所の東浦町は次第に晴れてきて観察会日和となりました。



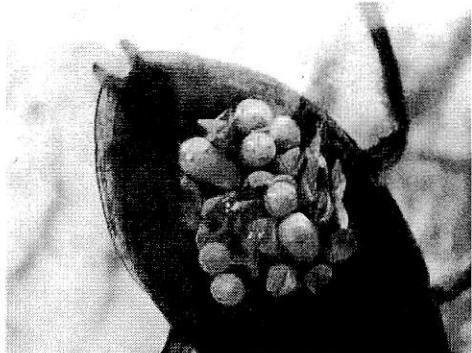
生き物採集の様子



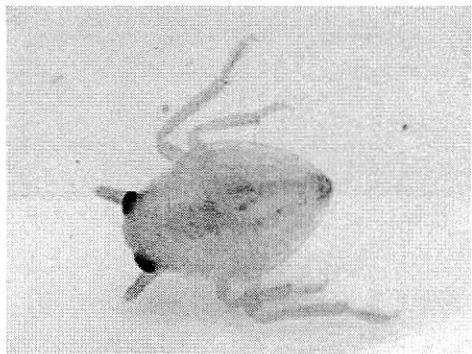
最後の分かち合いとまとめ

川に入ってすぐに大きなコイが捕獲できました。須賀川はタイリクバラタナゴが多く採集できる川でしたが、本日の観察会ではあまり採集できませんでした。一方、フナが以前にまして多く採集できました。

この日一番の採集はコオイムシで、観察会の途中で卵が孵化しました。これには、参加指導員の多くが歓声をあげ食い入るように観察しました。



コオイムシの背中



コオイムシの赤ちゃん

外来種も多い一方で、イシガメやナゴヤダルマガエル、メダカなどの絶滅危惧種もいました。外来種の数を減らし、絶滅危惧種の個体数が増えるように、地域みんなでこの川を守っていきたいと思いました。

☆観察した外来種

タイリクバラタナゴ（要注意）、オオクチバス（特定）、カダヤシ（特定）、アメリカザリガニ（要注意）、ミシシッピアカミミガメ（要注意）、オオキンケイギク（特定）

善師野の帰化植物

尾張支部 平井 直人

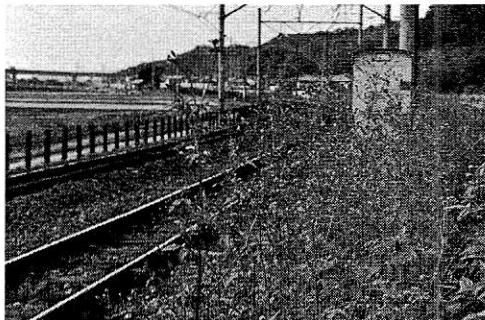
日 時：10月25日（土）

場 所：犬山市善師野

参加者：22名

歩いているだけで贅沢している気分、幸せオーラたっぷりのすばらしい秋晴れでした。

今年のあいの自然観察会のテーマは「外来種・侵入種について」です。尾張支部では、善師野の帰化植物に注目した観察会を行いました。



線路に咲く帰化植物コセンダングサ

善師野駅を出発すると、道はあぜ道になっています。ただし、すぐ横は線路のため、線路側はコセンダングサ、シロノセンダングサ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギなどの帰化植物が目立ちます。水路にはアメリカセンダングサも見られ、センダングサの仲間を見比べるのにとても良いところです。

善師野ではあぜの除草を除草剤ではなく、草刈機で行っている方が多いため、在来の植物が多く残っています。その中でも特に目につくのはキク科のオグルマです。この花は他ではなかなか目にすることはありません。善師野のあぜを代表する花です。



オグルマ咲くあぜの観察

熊野神社まで来ると、水田は谷津田に変わります。両側は林となり、林縁には黄色い舌状花のセンダングサが見られます。日本在来のセンダングサで、黄色くてはつきりした舌状花があります。林縁で見られ、田畑に現れるはありません。道端にはコセンダングサ、水路にはアメリカセンダングサと、すみ分けが見られます。



林縁に咲く在来種センダングサ

その他にも、善師野では道端で広く見られる帰化植物のアレチヌスピトハギと、山野に現れる在来種のヌスピトハギのすみ分けも見られます。どちらもひつつき虫と言われる種子ですが、種の量と運ばれやすさが分布の差のように思われます。



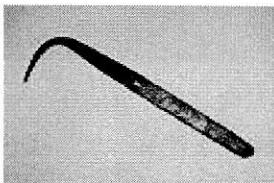
道具を工夫しよう

名古屋支部 山田 千宏

今回は、いつもと違う話で。

写真的道具、何かわかりますか？ご存じない方が意外と多いようです。

長さ28cmほど。手に持っていると、時と場所によっては怪しい人扱いになってしまします。形はこの通りとばかりは限りません。地域により、目的により、少しずつ違うようです。もう少し長いものもあります。持ち手が付いているものもあります。



答えは「磯金（いそがね）」。「蠶金（あまがね）」ともいいます。様々な名前があり、地域によっては、「アワビおこし」ともいうようです。岩に張り付いたアワビ類を剥がして、採集するための道具です。本来は海女さんなどが使う、プロの道具です。写真のものは、鍛冶屋さんがつくった本格的なものです。

「なんで、これを？」というわけですが、写真のものはカギ型に曲がっている反対側が扁平になっていて、ヘラのようになっています。これが、ちょっとした土掘りに使えます。木の皮を剥がせます。隙間を広げることが出来ます。カギ型の方は、高い枝を引っかけて手許に引き寄せることができます。朽ち木を分解する手がかりを作ることが出来ます。鉄製品ですので、重しになります。大きさがわかっているので、写真を撮る時の補助にすると、対象物のおおよその大きさがわかります。ただし、本来

の活躍の場である磯で持ち歩いていると、密猟者に間違えられかねませんので注意しましょう。

もう少し長いものはそれなりに便利ですが携帯に不便で、これぐらいが丁度いいようです。

もう一つ、非常に高い枝などを指示する時、どんな工夫をしていますか？ 野鳥の会の方の大変的確な指示の仕方を聞いたことがあります、いつも説明しやすい場所とは限りません。どうしましょう。

5cmくらいの手鏡はどうでしょう。晴れている日限定という欠点はありますが、レーザーポインターでは野外だと紛れやすいのに対して、割合的確な場所の指示が出来ます。暗い穴の中を照らすことも出来ます。鏡の裏側をグレーにして、簡単なスケールを書いて対象物と写真にとると大きさの目安に出来ます。

二つの例を紹介しましたが、みなさんもいろいろ工夫して使っている道具があると思います。そういうものを共有してみませんか？

追伸

以前「字書き虫」で紹介したサクラの葉ですが、今年は木にあるうちに注意して見てみました。葉がまだ緑色の時はちょっと痛んだように見える部分に褐色がかかった輪がありました。それが散る直前になり葉が黄色になってくると、その部分が逆に緑っぽく見えるようになりました。さて、原因は何なのでしょう。

私の活動紹介



東三河支部 片山卓也

少年時代、私は昆虫学者になりたいと思っていました。今は違う職に就きましたが、相変わらず昆虫のことが大好きです。この虫好きの趣味を活かす場として観察会に参加しています。

昆虫採集と聞くと、大人が調査や研究といった目的も無しに虫を採って楽しむなんておかしい、と思う人も多いでしょう。しかし私は堅苦しい目的を抜きにして、純粋に大人が昆虫採集を楽しんでいる姿を他の人たちに見せたいと思っています。私は、ただ虫が好き、というだけで虫を探っているのです。そんな生き方があったって良いでしょう。大人だって自信を持って昆虫採集を楽しんでもらいたいし、子供には大人になっても虫を探っていてもらいたいです。

さて、虫採りを誰が見ても一目で分かるようにするには、捕虫網を持っていればいいでしょう。私の「こだわりの道具」はこの捕虫網です。私が使っているのは、口径50センチの魚釣り用のイグモ枠に手縫いの網を取り付け、柄は一本の竹です。携帯には不便ですが、この網はとにかく頑丈です。この網は、掬い網採集に向きます。掬い網採集とはスウェーピングとも呼ばれ、特定の虫を狙うのではなく、叢や繁みの中を、ただ闇雲に網をふり回すという方法です。計画性には欠けますが、思わぬ虫が発見できる楽しみがあります。観察会の参加者に、ほんのちょっとした叢に気付かないような小さな虫や、沢山の種類が居ることに気付いてもらえると思います。私自身、虫の隠れ方の巧妙さ、形の不思議に驚かされることがあります。

また、捕らえた虫は名前が分かったから



▲子供たちに混じって虫捕り

といって、その虫の全てを理解したわけではありません。昆虫はとても種類が多いだけでなく、幼虫や蛹によっても姿形は様々です。これらを全て記憶するのは不可能でしょう。

そこで私は皆さんに珍しい虫より、身近な虫に興味を持ってもらいたいです。身近な虫なら、捕獲や飼育も容易なため、生活の様子もじっくりと観察することが出来ます。私は自分の目で実物を観察することが大切だと思います。最近は図鑑やネットのおかげで、容易く知識が手に入ります。ですが、この知識は自分ではない、他人によって得られたものです。さまざまな媒体から知識を得ることは大切ですが、実物を見ることを、一番大事にしてもらいたいです。観察会が実物を見る手助けとなって、観察会が終わった後でも、参加者が「今度は自分でも確かめてみたい」と思う、そんな観察会ができたら良いなと思っています。

※写真は東三河自然観察会ホームページ
(<http://www.higashimikawa-shizen.jp>)より転載しております。

平成 26 年度 第 3 回理事会 報告

日 時：平成 26 年 7 月 21 日（月・祝） 13:30～16:30

場 所：刈谷産業振興センター

出席者：大谷、降幡、星野、石原、吉田、久米、森田、永田、布目、石川、瀧崎、浅井、斎竹、滝田、三田、影山（代理）

◆生態系ネットワーク

愛知県環境部自然環境課から経緯や現状について説明あり。9 地域に分かれ進行しているが、地域により進み具合が違う様子。各地域のネットワークに参加して欲しいとのこと。

◆活動報告（5月～6月）

区分	日時	場所	参加人数	担当
あいちの自然観察会	5/6（火）10:00～12:00	小幡緑地	45名	名古屋支部
研修会	5/17（土）10:00～15:00	伊良湖	13名	東三河支部
	6/7（土）～8（日）	夜叉が池	14名	知多支部

議案 1 タケ調査 中間報告（調査担当 瀧崎氏）から

- 7～8月中にデータをとりまとめ、10月中旬までに調査結果をまとめる予定。

議案 2 当面の日程（8月～11月）

区分	日時	場所	集合場所	担当
あいちの自然観察会 「外来種・移入種」	8/3（日）9:30～12:00	逢妻男川	若林交流館	西三河支部
	8/23（土）9:30～11:30	須賀川	南ふれあいセンター	知多支部
	10/25（土）9:30～14:00	犬山市善師野	善師野駅	尾張支部
	11/2（日）9:30～12:00	旗頭山	金沢墓園駐車場	東三河支部
研修会	秋の草木観察会	8/31（日）8:00～17:00	茶臼山	本郷駅
	タカの渡り	9/23（火）8:00～19:30	白樺峠（松本市）	尾張支部
	キノコを学ぶ	11/2（日）9:00～15:00	豊田市自然観察の森	西三河支部
フォローアップ研修会	9/6（土）～7（日）	庄内緑地グリーンプラザ		
生物分類研修会	10/13（月）13:30～	日本特殊陶業市民会館		
協議会交流の日	11/24（月）10:00～15:00	大高緑地		名古屋支部

議案 3 E S D 併設イベントへのブース出展

11月 8 日（土）～9 日（日）栄会場など、名古屋支部が中心となりブース出展予定。

議案 4 各担当から

編 集：協議会ニュースの表紙用イラストを募集中

名簿管理：会員名簿発行予定

保 險：マダニについて（詳細はp. 12を参照してください。）

その他

- 来年度のフィールドセミナー

テーマ：目から鱗の植物写真 フィールドセミナー予定 講 師： いがりまさしさん

日 時：4月 5 日（日）& 4月 12 日（日）午前・午後 各15名 参加費：1000円

場 所：海上の森 集合場所：海上の森駐車場

- 次回（第4回理事会） 11月 30 日（日）13:30～（東三河支部担当）

（記録：石原）

マダニにご注意！

民家の裏山、畑、田んぼのあぜ道などにも生息するマダニ。

そのマダニが媒介する感染症のひとつに、重症熱性血小板減少症候群 SFTS (フレボウイルス) があります。野外では腕・足・首など、肌の露出を少なくし、マダニ対策をしっかりしていきましょう。

参考になるWebページ：国立感染症研究所（マダニ対策、今できること）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanaitaisaku.html>

万が一、観察会中にマダニに咬まれてしまったら……（保険担当 布目さんより）

協議会の観察会レクリエーション保険は「急激かつ偶然な外来の事故」が対象になります。保険会社に問い合わせた結果、マダニにかまれたことをはっきりさせて欲しいとのことです。

マダニは血を吸うと1センチくらいの大きさになるので、それを写真に撮った後、皮膚科か外科で除去してもらうのが一番いいと思います。

まれに、マダニにかまれ重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に発症すると死に至る場合がありますから、主催者は注意が必要です。

***** 編集部から *****

原稿の執筆、編集、校正など多くの方の協力で作られている協議会ニュース。

会員のみなさんに、より身近に感じていただきたくて、編集スタッフの紹介を兼ねた編集後記を掲載しています。今回は、名古屋支部の日浦誠章さんです。

142号から担当しています名古屋支部の日浦です。

2013年9月犬山で開催された自然観察指導員講習会に参加し、自然観察指導員になって1年が過ぎたばかりです。

なかなかフィールドでの活動の時間が取れないのですが、その分編集部の一員として協議会の活動の一助となれたらと思っています。

会員の皆様には原稿の作成依頼でいろいろご迷惑をおかけすることがあるかもしれません、ご協力をお願いします。

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
「協議会ニュース」 編集部	久米未祐 TEL : 090-3302-1621 E-mail : ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp Web Page : <http://naichi.net>

郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)